

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）総括研究報告書

がん検診における‘Shared Decision Making’推進と利益不利益バランスに基づく受診意思決定支援ツール開発のための研究

研究代表者	濱島ちさと	帝京大学医療技術学部・教授
研究分担者	渡邊 清高	帝京大学医学部・病院教授
	後藤 励	慶應義塾大学大学院経営管理研究科・教授
	寺澤 晃彦	藤田医科大学医学部・教授
	細野 覚代	国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所検診研究部 検診評価研究室・室長
	山崎 恭子	帝京大学医療技術学部・教授

研究要旨

科学的根拠に基づく利益と不利益を個人の価値観に照らし合わせ、最良の方法が選択できる‘Shared Decision Making’が、がん検診において適切に利用されることが求められている。‘Shared Decision Making’を推進する上で文献レビューにより先行研究におけるDecision Aidsの効果検証、がん検診の利益・不利益の選好に関する行動経済学的調査、都道府県におけるがん検診対策を行った。また、現状のがん検診受診における問題点を検討するためのがん検診受診率解析、看護職による受診勧奨試行調査、がん検診関連の受診意思に関する質的調査を実施した。これらの結果を踏まえ、がん検診における情報提供のあり方、さらには我が国における‘Shared Decision Making’の推進について協議した。これらの成果をもとに、次年度はがん検診の受診率対策に活用できるDecision Aidsを開発すると共に、‘Shared Decision Making’マニュアル案を作成する。

A. 研究目的

科学的根拠に基づく利益と不利益を個人の価値観に照らし合わせ、最良の方法が選択できる‘Shared Decision Making’が、がん検診において適切に利用されることが求められている。本研究では、我が国においても、がん検診の利益・不利益を勘案して受診選択を可能とするための Decision Aids（意思決定支援ツール）開発を目標とする。

B. 研究方法

- ① 諸外国における利益・不利益の情報提供の系統的文献レビュー、大腸がん検診勧奨試行調査、質的調査等を行う。大腸がん検診勧奨試行調査、質的調査は帝京大学倫理審査承認済。
- ② 行動経済学における受診者選択（慶應義塾大学倫理審査承認済）について調査し、科学的根拠と現場のギャップ解消を検討する。
- ③ 国立がん研究センターの「有効性評価に基づくがん検診ガイドライン」の科学的根拠と研究班の研究成果を参照し、我が国で利用可能な Decision Aids 案を作成する。
- ④ 医療者と受診者が Decision Aids を共有し活用するための‘Shared Decision Making’を進めるためのマニュアル案を作成する。

C. 研究結果

1. 情報提供に関する文献レビュー

- ① Decision Aids の利用、効果検証の調査のシステマティックレビューの簡易レビューを実施、これに基づき、正式なアンブレラレビューを計画した。計画書を国際レジストリーに登録、学術雑誌に投稿した。新たな計画書に基づき正式な文献検索、フルテキストスクリーニングを実施した。
- ② IARC と連携して行った、細胞診による子宮頸がん検診の不利益、子宮頸がん検診の新技術に関するレビュー論文を公表した。

2. がん検診の適切な情報提供

がん検診における情報提供と啓発、Decision Aids としての情報発信の現状を把握し、都道府県におけるがん検診の効果的な実施に資する取り組みと今後の方向性を明らかにするため、2018年3月に取りまとめられた都道府県がん対策推進計画のレビュー計画を策定した。実施体制に加え、普及啓発・Decision Aids、個別勧奨、精度管理・事業評価、職域検診との協業の領域において新たな項目を作成した。

3. 医療経済学的調査

がん検診の利益と不利益のバランスに関する人々の選好を定量的に明らかにすることを目的とし、公的ながん検診の対象者である40～60代の男女の一般市民に対してオンラインのアンケート調査を行った。方法として、人々の選好を定量的に明

らかにするため離散選択実験 (DCE: Discrete Choice Experiment) を用いた。約 4,000 名のデータ分析により、がん死亡率が低くなり、偽陽性者数の少ない、集団検診より個別検診、郵送検診の方が、検診陽性者に対するサポートの厚い検診が有意に好まれる結果が得られた。

4. がん検診の受診率解析

2018 年度地域保健・健康増進事業報告と市区町村におけるがん検診の実施状況調査データを用いて、個別受診勧奨の有無とがん検診受診率との相関を検討した。いずれのがん種でも相関は弱く、引き続き個別勧奨方法別・実施機関別の検討を行っている。

5. 受診支援対策

- ① 大腸がん検診未受診者を対象とした受診勧奨：地域の大腸がん検診未受診者に便潜血検査キットの郵送、回収による支援と未受診の理由を把握した。
- ② 大腸がん検診精密検査受診支援：職域で実施された大腸がん検診で便潜血が陽性となった者に対し、精検受診支援を行い、あわせて受診に関する知識、態度、障壁を把握した。

D. 考察

受診者ががん検診の利益だけでなく、不利益を理解し、個人の価値観に基づいた選択を行うことは、がん検診の継続受診には不可欠のプロセスである。しかし、コロナ禍を経て、がん検診を始め医療サービスの情報提供のあり方が変化しつつあり、‘Shared Decision Making’の必要性がより重視されつつある。諸外国におけるがん検診の情報提供も科学的根拠に偏った形式から、対象者の身近な課題として認識し受診の判断に結び付きやすい形式に変化してきている。がん検診における‘Shared Decision Making’を定着させていくためには、科学的根拠と患者中心主義の考え方のバランスをとりつつ検討することが必要である。

E. 結論

文献レビューにより先行研究における Decision Aids の有効性評価や都道府県におけるがん検診対策の検討と共に、患者の語りの質的研究、地域・職域における受診勧奨対策の検討を行った。これらの成果をもとに、我が国におけるがん検診の受診率対策に活用できる Decision Aids を開発する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 濱島ちさと、祖父江友孝. 4 健康状態・疾病の測定と評価, スクリーニング. 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所監修 健康・

栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2022-2023 改定第 7 版(辻一郎、吉池信男 編集). 南江堂, 東京, 2022. 3. 15.

2. Hamashima C. Forthcoming Step in Gastric Cancer Prevention: How Can Risk Stratification Be Combined with Endoscopic Screening for Gastric Cancer? Gut Liver. 2022 Mar 22:1-14.
3. Terasawa T, Hosono S, Sasaki S, Hoshi K, Hamashima Y, Katayama T, Hamashima C. Comparative accuracy of cervical cancer screening strategies in healthy asymptomatic women: a systematic review and network meta-analysis. Sci Rep. 2022 Jan 7;12(1):94.
4. Hibino M, Hamashima C, Iwata M, Terasawa T. Effectiveness of decision aids on cancer-screening decision making: an umbrella review protocol. BMJ Open. 2021 Dec 8;11(12):e051156.
5. Bouvard V, Wentzensen N, Mackie A, Berkhof J, Brotherton J, Giorgi-Rossi P, Kupets R, Smith R, Arrossi S, Bendahhou K, Canfell K, Chirenje ZM, Chung MH, del Pino M, de Sanjosé S, Elfström M, Franco EL, Hamashima C, Hamers FF, Herrington CS, Murillo R, Sangrajang S, Sankaranarayanan R, Saraiya M, Schiffman M, Zhao F, Arbyn M, Prendiville W, Indave Ruiz BI, Mosquera-Metcalf I, Lauby-Secretan B: The IARC Perspective on Cervical Cancer Screening. N Engl J Med. 2021 Nov. 11;385(20):1908-1918.
6. Utsumi T, Horimatsu T, Nishikawa Y, Hoshino N, Takahashi Y, Goto R, Kashihara S, Fukuyoshi J, Nakayama T, Seno H. Medical costs according to the stages of colorectal cancer: an analysis of health insurance claims in Hachioji, Japan. J Gastroenterol. 2021 Oct;56(10):903-913.
7. Huang RJ, Epplein M, Hamashima C, Choi IJ, Lee E, Deapen D, Woo Y, Tran T, Shah SC, Inadomi JM, Greenwald DA, Hwang JH. An Approach to the Primary and Secondary Prevention of Gastric Cancer in the United States. Clin Gastroenterol Hepatol. 2021 Oct 6;S1542-3565(21)01054-5.
8. Hamashima C. Emerging technologies for cervical cancer screening. Jpn J Clin Oncol. 2021 Aug 30 ; 51(9):1462-1470.
9. Hamashima C, Sasaki S, Hosono S, Hoshi K, Katayama T, Terasawa T. National Data Analysis and Systematic Review for Human

Resources for Cervical Cancer Screening in Japan. Asian Pac J Cancer Prev. 2021 Jun 1;22(6):1695-1702.

10. 濱島ちさと. 消化管がん検診・スクリーニングの手引きⅢ, 胃がん検診・スクリーニング, ②胃がん検診ガイドライン:X 線検診, 内視鏡検診, 血清診断のエビデンス. 臨牀消化器内科. 2021. 7. 15;36 (8):882-886.
11. 濱島ちさと. がん検診における看護職の役割と重要性. Gastro-Health Now 第71号. 日本胃がん予知・診断・治療研究機構. 2021. 6. 1:1-3

2. 学会発表

1. 楯直子, 渡邊清高, 安西偕二郎, 上野公子, 安野伸浩. 薬学部教育から医療現場・地域に広がる多職種連携 患者中心の医療を実践できるチーム医療を目指して. 薬学教育. 2022年1月;5:119-126.
2. 濱島ちさと. 利益不利益バランスによるがん対策の政策決定. 第59回日本消化器がん検診学会大会, 2021. 11. 4, 神戸. (日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:574)
3. Hamashima C. Multiple criteria decision analysis for development of cervical cancer screening guidelines. Health Technology Assessment International 2021 Virtual Annual Meeting. 2021. 6. 19-23, Virtual.
4. 寺澤晃彦, 濱島ちさと. 胃がん検診の有効性に関するエビデンスレビュー. 第59回日本消化器がん検診学会大会, 2021. 11. 4, 神戸. (日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:616)
5. 只野敏浩, 寺澤晃彦, 濱島ちさと: 精度比較による便潜血検査免疫法の有効性評価. 第59回日本消化器がん検診学会大会, 2021. 11. 4, 神戸. (日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:616)
6. 阿部浩一郎, 寺澤晃彦, 濱島ちさと. システマティックレビューによる便潜血検査化学法と免疫法における中間期がんの比較. 第59回日本消化器がん検診学会大会, 2021. 11. 4, 神戸. (日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:638)
7. Hamashima C. Change of clinical practices after the introduction of endoscopic screening for gastric cancer in Japan. Gastro 2021 Prague. 2021. 12. 9-11, プラハ, Virtual.
8. Hamashima Y, Hamashima C. Participants motivation for colorectal cancer screening in Japan: A secondary qualitative study. Virtual ISPOR Europe 2021. 2021. 11. 30-12. 3. Virtual.
9. 渡邊清高, 山崎恭子, 細野覚代, 濱島ちさと. がん検診に関する第3期都道府県がん対策推進計画レビューに向けた評価項目策定. 日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:664.
10. 只野敏浩, 寺澤晃彦, 佐々木清寿, 片山貴文, 細野覚代, 星佳芳, 阿部浩一郎, 濱島ちさと. メタ・アナリシスによるFITカットオフ値の検討. 第59回日本消化器がん検診学会大会, 2021. 11. 4, 神戸. (日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:665)
11. 石田理, 齊藤洋子, 山崎恭子, 濱島ちさと. 大腸がん検診未受診者を対象とした受診勧奨のための試行調査. 日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:666.
12. 濱島ゆり, 山崎恭子, 濱島ちさと. 質的調査法による大腸がん検診受診・精検受診の動機付けに関する検討. 日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:666.
13. 山崎恭子, 山岸貴子, 濱島ちさと. 大腸がん検診受診率向上にむけた市区町村の取り組み. 日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:666.
14. 山崎恭子, 大高のぶえ, 山岸貴子, 濱島ちさと. 大腸がん検診における便潜血検査陽性者の抱える不安. 日本消化器がん検診学会雑誌. 2021;59Suppl大会:666.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし